

2024

町田市立国際版画美術館
2024年度夏期子ども講座 活動報告書

どうぶつたちのスポーツ大会

動物たちの活躍をスクリーンプリントでTシャツにしよう！



町田市立国際版画美術館では、子どもたちが美術館に親しむことをねらいとして、2006年から継続的に「夏期子ども講座」を実施しています。当初から東京学芸大学版画研究室の清野泰行教授の企画協力により、さまざまな版画技法を取り上げ、制作する楽しさをじかに体験してもらう場を提供してまいりました。今年は「どうぶつたちのスポーツ大会」をテーマにして、スクリーンプリントによる版画制作を行いました。出来上がった作品を鑑賞するだけでなく、世界に一つしかないTシャツを着て楽しむことのできる活動をご覧ください。

講座概要

タイトル：「どうぶつたちのスポーツ大会 ～動物たちの活躍をスクリーンプリントでTシャツにしよう！～」
 内容：感光法(写真製版法)で作られたスクリーンの版を使って、スポーツを楽しむ動物をTシャツや紙に刷る
 日時：第1回 7月27日(土)、第2回 7月28日(日) 10:30 ～ 15:30 途中、昼食・休憩を含む
 会場：アトリエ・版画工房
 対象：小学3～6年生 定員：15名(各回) (参加者数：1回目14名、2回目15名)、 受講料：2,000円
 指導：東京学芸大学 清野泰行および同大学在学学生15名 *Tシャツ代金を含む
 主催：町田市立国際版画美術館 企画/協力： 国立大学法人東京学芸大学

スクリーンプリントとは

木やアルミの枠に目の詰んだテトロン（ポリエステル）などの化学繊維を張り、布目を何らかの方法でふさいでインクを通過するところと通過しないところを作って版を作る。そこにスクリーンプリント用のインクをのせ、スクージー（幅の広いヘラ）で版の上からインクをしごき出して紙や布などに図柄を印刷する版画技法。かつては枠に絹を張っていたため、シルクスクリーンとも呼ばれている。

- この講座で使ったもの 【下 絵】：下描き用紙（受講者に事前送付・画面サイズ：18cm×14.5cm）、オリジナル図案集
【原稿作り】：マットフィルム（1人2枚）、オベークインク・ペン、水性顔料ペン、マスキングテープ
【版作り】：版（アルミ枠、テトロン150メッシュ、1人2枚）、感光乳剤、ドライヤー、感光機、他
【刷り】：刷台（表面：Tシャツ用、裏面：版画用紙用）、ダイカラー（水溶性スクリーンプリント用インク）
版画用紙（1人3枚）、Tシャツ（1人1枚・希望サイズを選択）
- 班分けと役割分担 【受講生】 1班3人（近い学年ごとに5つに班分け）
【大学生】 全体進行役：1人、班講師：1班2人、全体サポート：2人、記録：2人

スクリーンプリントの版制作

諸注意と講師紹介
（10分）

原稿作りの説明
（10分）

原稿作り
（40分）



【スクリーンプリント技法の説明】全体進行役がスクリーンプリント用の版を作る手順をプロジェクターを使って説明した。その後、各班講師は子どもたちの下絵を確認し、一人一人にアドバイスをを行った。また、当日用意したオリジナル図案集を活用してもらうこともできた。



【原稿作り】下絵に半透明のマットフィルムをのせ、光を通さないオベークペン・インク等でなぞった。最初に動物用の原稿を作り、インクを完全に乾かしてから背景のフィルムを重ねて原稿を作った。フィルムにはあらかじめ画面の周りをテープでマスキングし、原稿が完成してからのはがした。

版作り
（感光）

（1セット10分×5回）



【版作り】感光の準備と露光は学生が行なった。2枚の原稿を直射日光が入らない隣の部屋に運び、事前に感光乳剤を塗ったスクリーンにテープで固定した。この乳剤はスクリーンの布目をふさぐように塗って乾燥させてあり、水に溶けやすいが、紫外線に当たると硬化する性質を持っている。



【版の完成】原稿が貼られた版を暗室に運び、3枚同時に感光機で露光した（紫外線を当てた）。すぐに版を水洗いすると、光を通さないペンやインクで描いた部分の乳剤は水に溶けて流れてしまい、それ以外の部分は硬化して残った（緑の部分）。昼休みの間、版を日光に当て乾かした。

昼休み
（45分）

刷りの準備
（25分）



【刷りの準備】別室で行なった感光の様子を説明してから刷りの準備を行なった。版と紙・布の間に隙間ができるように、版の裏側の四隅にクッション（スチレンボード：2cm角、6mm厚）を貼った。この隙間があることで、紙と版のインク離れが良くなり図柄を鮮明に美しく刷ることができる。



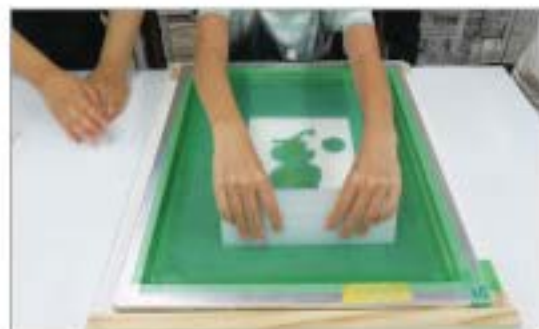
【紙を置く位置を決める】刷台の上に背景の原稿を貼った紙をのせ、紙の両端に付けた持ち手を使い、原稿と版の図柄がピッタリ合う位置を決めた。紙見当（小さな厚紙）を紙の角端に合わせ刷台に貼り付ける。これらの見当に版画用紙を合わせて置くことで、常に同じ位置に刷ることができる。

背景の版と動物の版の刷り

刷りの練習 (15分)



【Tシャツの準備】Tシャツは予めシワができないようにボール紙の中に入れ、周りが汚れないように窓を開けたビニールを被せておく。これをテーブルで刷台に固定して印刷した。刷り終わったらTシャツを外し、刷台を裏返してから紙の刷りに入る。



【紙に刷る練習】刷台に付けた見当に合わせて紙を置いたら、版をL字状のガイドにはめ込んで固定する。スクージーを奥から手前に動かすと同時に下方方向に力を入れる。そうすることで、インクがすすずに、はっきりと印刷することができる。

本刷り (90分)

背景の刷り ＜Tシャツと紙＞

動物の刷り ＜Tシャツと紙＞



【背景の刷り】背景のグラデーションは、赤系か青系のどちらかを、自分の絵に合わせて選んでもらった。グラデーションのインク作りは、班講師がスクージーを小さく左右に動かして隣合うラインを混ぜながら行った。



【Tシャツへの刷り】2人の班講師が受講生を1人ずつサポートして、Tシャツ1枚と紙3枚を一気に印刷した。Tシャツの刷りでは1人の班講師が版が動かないようにしっかり押さえるようにした。(写真は刷り上がりを確認しているところ)

感想文



【紙への刷り】Tシャツの刷りが終わったら、刷台を裏返して紙の刷りを行なった。1枚刷り終わると次の紙を入れ替え、手前に溜まったインクをスクージーで奥に押しやってから、版を再びガイドにはめ込んで次の紙の印刷に取り掛かった。



【動物の刷り】動物の図柄が背景にピッタリ合うように、版の位置（Tシャツの場合）や見当の位置（紙の場合）を慎重に決めてから、黒のインクで動物の図柄を刷り重ねた。班講師は刷りの力加減やスピードなどを、声がけて指導にあたった。

記念撮影



【第1回目の受講生のみなさん】

スクリーンプリントの魅力は、作品を作って鑑賞するだけでなく、Tシャツなどに刷ることで実生活の中でアートを楽しむことができることだ。子どもたちは講座の感想文を書いてから、完成したTシャツを着て美術館のエントランスホールで記念撮影を行なった。明るい表情から達成感、満足感をうかがうことができる。



【第2回目の受講生のみなさん】

展覧会

受講生と指導した学生の作品展

『どうぶつたちのスポーツ大会』

会 期：2024年8月6日(火)～10日(土)10:00～17:00

※ 8/6は13時より、8/10は15時まで

会 場：町田市立国際版画美術館 市民展示室A室



受講生29名のTシャツ作品は天井から吊り下げて、紙作品は簡易額装し壁面に展示し、子どもたちのアイデアや制作を通して感じたことなどが分かるように下書き用紙と感想文も飾った。また、スクリーンプリント技法の制作工程の説明としてビデオ上映とパネル展示を行った。特に子どもたちの活動を工程順に紹介したビデオは好評だった。さらに、指導にあたった大学生12名の版画作品も展示した。期間中、198名が子どもたちの作品を鑑賞した。



【パネル展示】

「スクリーンプリントの作り方」

本講座は小学生を対象としているため、活動の様子を友達が見ても理解できるようにパネル展示とビデオ上映を組み合わせることで内容を表した。また、パネルは楽しい雰囲気を出すためにイラストも加えた。

「オリジナルTシャツを着てみたよ」

出来上がったTシャツを着て、全員で記念撮影をし、その後1人ずつ思い思いのポーズをしてもらって個人撮影をした。



【受講生作品の展示】紙と布といった素材の違いでも作品の印象は変わってくる。Tシャツの展示では、高低差を付けたり、Tシャツのデザインがどの方向からでも見えるように、2枚のTシャツを背中合わせにして吊るしてみた。

【ビデオ上映】ビデオには、子どもたちが直接関わらなかった感光(版を作る作業の一つ)作業の様子も加え制作全体の流れを示した。また、スクリーンプリントの特徴である刷りのスピード感も伝えることができた。

【学生の作品展示】スクリーンプリントは、Tシャツや紙だけでなく、エゴバックなど表面が平らなものに刷ることができる。また、銅版画や木版画など、その他の版画表現も展示することで、版画表現の多様性を示した。

受講生の声 (感想文より一部抜粋)

▶今までははん画では紙にしかうつせないと考えていたけどぬのにもうつせるのを知ったりはん画ではするのにいがいと力がかかり、かえしてからする。というやり方をおぼえました。(3年) ▶はん画は初めてだったので新しいたいけんが出来てよかったです。動物をいんさつする時、とてもきれいに出来てうれしかったです。(3年) ▶このTシャツで学校に着ていって、みんなに見せたいです。(3年) ▶インクをすって落とすところはおもしろかったです。他の人の作品もステキでした。(4年) ▶むずかしかったことは紙と紙を、きれいに、ぴったりあわせることです。きれいに合わせないとずれちゃって、へんだから、すご〜くしんちょうに、あわせました。(4年) ▶じっさいにすってみるととてもむずかしかった。でもTシャツが一番うまくいったと思うので、良かったです。(5年) ▶Tシャツにプリントするときずれないか心配だったけれど思ったよりずれなくて良かったです。昼ごはんも班の人と話したりしていろいろなことが知れました。(6年) ▶ともだちときょうりょくをしてせかいに1つだけの自分のTシャツをつくる事ができてうれしかったし、たのしかったです。(6年)

指導した学生

澤井青海 高田優 中山結夢 釜谷洵一 楠本京香 島山千陽
波多汐音 新井紗希 内館凜 佐藤愛結 佐藤ちひろ 柴崎琳子
清水ふみ子 田頭由梨 吉岡蓮 (3年生3名、2年生4名、1年生8名)

2024 年度「夏期子ども講座」活動報告書

発行年月日 2025 年 1 月 31 日

編集・印刷 東京学芸大学 清野泰行研究室

発 行 町田市立国際版画美術館